スピリチュアリスト、ヒーラー、霊能者、占い師…こういう業界で職業をされている方はいっぱいいるんですが、けっこう多いのが「どこにも師事したことはございません、霊感や才能のみでやっています」という方。

タイトルから見るとそういう人たちが全く駄目か、というとそうでもありません、実は。

頭や形、知識や作法から入った人間にはない『型破り』な部分は非常に強みです。ある意味で狂気と隣り合わせなのですが、どんなに長く続く宗教であろうとも、現実世界の視点から見れば最初の一人のトンデモ話から始まっているのです。そういう『原初』な人たちなのだと私は考えます。

私の場合は、幸か不幸か形から入っている(師事している)タイプです。

原初の人間にはなれません。使っている手法がオリジナルではありませんので。

しかし、過去からの効果のある手法を受け継いできているともいえます。

そして、過去からの積み上げを使って自分の手法をもっと研鑽していける、とも考えています。

人間には自分の受け継いだ遺伝情報を後世につぐ、という役割が肉体に備わっていますが、何も肉体的な事に限らず、精神的・文化的なものを指す事もあります。

肉体的なものをジーン、精神的なものをミームと英語では分けて表記します。

古くから伝わる良き手法を、受け継ぎ、改良し、そして後世に伝えていく。

それは『原初』である事と同等の価値があると私は考えます。

原初の人間がひらめきで手に入れたものを、知識で補って改良していける。

原初の人間はそのひらめきが天才的であればある程、他の人間に伝えていくのは難しいです。

天才的というのは他の人間とは違うということで、違うということは共感しづらい、ということにつながります。

そう思えば、別にそんなにスピリチュアリティ、霊感といったものが誰よりも秀でてなくてはならない、というわけでもない事がわかります。

そして『霊感のみです』という事は別に誇るべきことでもない事がわかります。

要は「現実をどうやって変えていくか」という一つの手法としてスピリチュアルなスキルを使っているにすぎないのですから。

 それでは、最後までお読みいただきありがとうございます。